

若者ワークショップの実施結果について(速報版)



R6.9.20
第2回和泉市こどもまんなか会議

1. 若者ワークショップ実施状況一覧

No.	区分	対象	実施日	対象者	実施方法	テーマ
1	1-① 若者当事者	参加募集により4名参加	8月26日(月)	18歳～39歳	座談会形式で意見交換する。 ファシリテーターは茨木市ユースサポートセン ター相談支援コーディネーター。	・くらしの満足度 ・生きづらさ ・相談 ・居場所
2	1-② 若者当事者	高校生～39歳の若者当事者や 若者当事者家族	7月中旬から8月末	15歳～39歳	関係各課、近隣自治体、関係機関、大阪府子ど も・若者民間支援機関、府立高校等に向けアン ケート依頼した。7月中旬から8月末まで実施。	ひきこもり・生きづ らさについて等
3	1-③ 大学生	大学生 20名程度	11月28日(木) 12月5日(木)	桃山学院大学 社会学部ソーシャルデ ザイン学科	5人程度のグループに分け、こども計画の重点 項目を中心に選定したテーマについて、各グ ループごとに座談会形式で意見交換する。	若者計画(素案) への意見
4	2-① 支援者	若者支援関係者	8月2日(金)	関係機関 民間居場所運営団体	配慮が必要な若者の課題整理、若者支援のあ り方について意見交換する。 (中学校教諭・高校教諭・CSW・SSW・社協・く らしサポート課生活相談支援員・民間居場所づ くり団体)	・成年年齢を迎え る前に必要となる 知識に関する情報 提供や教育 ・居場所づくり ・就労支援、雇用 と経済的基盤の安 定 ・悩みや不安を抱 える若者やその家 族に対する相談体 制の充実

1. 若者の意見まとめ

重点項目4 配慮が必要なことも若者への支援(4-5 不登校・ひきこもり(こども若者計画))、重点項目5 ライフステージにおける支援(5-3 青年期(こども若者計画))に反映させる。

社会の一員としての主体性を高めることにつながるよう、自己肯定感や自己有用感の向上を目的に、どのような環境や仕掛けが必要であるか、若者自身の思いを聴き、の取組みに活かす。

若者の意見

・教室に入りにくい子や学校に行きづらい子たちの居場所。そういう居場所もできてきてはいるが、少ない。居場所があっても定員があるため、そこに入れないという子もいるという現状があるため、教室とは別の居場所を行政として増えたいと思う。

・一人暮らしをしている際に風邪をひいたときなどに、すべて一人で対応しないといけないことに心細さを感じる。それに対するサポート。

・就職となると、自分の将来が決まるわけで、そこが決まらないと不安で、しんどかった。**働くにあたっての不安もこれから出てくると思う。**

・流行った雑誌に載っていた人と自分とのギャップにショックを受けて摂食障害になったことがある。**作られたイメージと現実世界とのギャップに生きづらかったという時期があった。**

・高校での文理選択、大学での選択、就職の際の選択があるが、これらはやり直しがききにくい傾向にある。**合うか合わないか試しできていないのに選んでしまっ**
て、うまくいかないというもの結構ある。そういうことを考えるきっかけとか時間も日本は少ない。

・家族や友だち、大学の先生やゼミの先生に相談をしている。**人によって相談する内容をわけているかもしれない。**

・自身の場合は、相談相手は特にいない。自分と気の合う人がそもそもいない、期待する答えを返してくれそうな人もいなかったの、とりあえず自分で解決するしかないみたいな感じ。理由としては、感情的な共感というのを個人的には求めておらず、どうしたら解決できるかみたいな答えを求めていて、「うんうん」と共感してくれそうな人は恐らくたくさんいるが、答えを返してくれる人がいなかったというところがある。

・自分の部屋や家はもちろん、仲のいい友だちと一緒に話してるときは居心地がいいと思う。**親しい人がいる空間というのがいいのかもしれない。**

・親しい人の家や親しい人と一緒にいるときは安心する。何でも言えるし**「大丈夫だよ」と言ってくれるので、ほっとする。**

・個人的には建築空間が大事だと思っている。公園の中で外に開けていて、ガラス張りでみたいところのほうがかえって雰囲気が良かったりとかする。行政の施設も結構かかったりする。こどもの不登校支援してる場所もあるが、公民館の一室でやってたりするが閉じているので、そういう**空間づくりも大切**

・喫茶店にも一人で行ったりするが、**同じように一人で来店している人もいるので、それも居心地がいい**と思うし、隣の席の人の話が聞こえてきてそれにちょっと笑ったり、そういうのも面白い。

・色んな特性というか、「今日はこの気分」とかで行けるようないろんな居場所があればいいと思う。

計画への意見反映ポイント

- ① 相談できる人がいない人がいる。
⇒悩みごとを相談できる体制整備が必要。
- ② 自分にとって居心地がよいと感じる場所(居場所)が少ないと考えている人がいる。⇒自分にとって心地よいと感じる「自分にとっての居場所」があれば、安心感を持つことができる。
- ③ 将来(働くこと)への不安を感じている人がいることから、キャリア教育、就職に関連する情報提供などにより、働くことのイメージを持てるようにする。
- ④ 自分に合う仕事がわからないまま、進路や就職の選択をすることに対する不安をもっていることから、不安を少なくできるような就労したい人への支援を充実する。

1. 若者支援者の意見まとめ 1

重点項目4 配慮が必要なことも若者への支援(4-5不登校・ひきこもり(こども若者計画))、重点項目5 ライフステージにおける支援(5-3青年期(こども若者計画))に反映させる。

社会の一員としての主体性を高めることにつながるよう、自己肯定感や自己有用感の向上を目的に、どのような環境や仕掛けが必要であるか、若者自身の思いを聴き、の取組みに活かす。

若者支援者の意見

【成年年齢を迎える前に必要となる知識に関する情報提供や教育】

- ・卒業前の介入
- ・卒業後の相談先へのつながり
- ・適した情報源が不明
- ・ひきこもり等のその後の進路について、**キャリア相談の情報が少ない**。当事者に提案しても、「むりむり」と自己肯定感の低さから否定する。
- ・子は親の背中を見て育つ。そのため、親がしんどいとその影響を受ける。**若い親で、生活の基本の力を知らないことがあると、子どもも知らない。**
- ・近所の繋がりがもっとあれば、いろんな人から助言をもらえる。**いろんな人との出会いの機会が減っている。**
- ・キャリア(将来のプラン)教育や出張講座(学校以外も・地域・親)
- ・人と人とのつながり
- ・**キャリア教育で、ライフステージごとの自分を考える機会**。何歳で何を、どうなっているかを考える。描ける支援があった方がよい。自分の将来の見える化、ライフステージ表のようなものを考える。社会での自分の役割を考える機会。
- ・**親子ともにライフステージのキャリアの相談ができる窓口があったらいい。**

【就労支援、雇用と経済的基盤の安定】

- ・**働きたくない若者が働きたくないと主張するようになっている**
- ・「ひきこもり」と認めたくないが故に、ひきこもりの相談窓口を忌避することもある。気軽に相談しにくい。
- ・**職場体験の場が少ない。**
- ・**失敗したくない**
- ・職場体験など地域との協力体制
- ・**本人の自己理解と納得感を持てる経験の場**
- ・**本人とともに家族のサポート**
- ・頼れるところがあるという安心感

計画への意見反映ポイント

- ① キャリア(将来のプラン)に関する情報や相談場所が少なかったり、失敗を恐れて将来への不安がある若者がいることから、キャリア教育、就職に関連する情報提供などにより、働くことのイメージを持てるようにする。
- ② 就労するイメージがもてていないという認識をもって、就労したい人への支援を充実する。

1. 若者支援者の意見まとめ2

重点項目4 配慮が必要なこども若者への支援(4-5 不登校・ひきこもり(こども若者計画))、重点項目5 ライフステージにおける支援(5-3 青年期(こども若者計画))に反映させる。

社会の一員としての主体性を高めることにつながるよう、自己肯定感や自己有用感の向上を目的に、どのような環境や仕掛けが必要であるか、若者自身の思いを聴き、の取組みに活かす。

若者支援者の意見

【居場所】

- ・居場所づくりにおいて何が大事か→地域も一体となって子どもの心の中に入っていないと続かない。
- ・繋がろうとする力をつける。
- ・居場所とは、安心、安全な場所。価値観を押し付けない。
- ・居場所も、数が増えないと選べない。
- ・自分で通える場所が大事。遠方では気軽に通えない。
- ・課題のある家族のケア。
- ・人と会うのは苦手だけどメールとかZOOMとかなら大丈夫な人もいる。話したいと思っている人はいる。
- ・地域によって福祉部門での就労支援について、対象像が異なる。合う合わない選択肢、**選択できることの大切さがある**。
- ・居場所でも、人がいるところに行くのにエネルギーを必要とする人もいるので、まずはSNSで繋がってほしい。繋がっている人のいるところには、エネルギー少なく、行きやすい。
- ・子どもが支援の結果、状況を変えようとしても、親が変わらない時が多々ある。当事者だけでなく、家庭への支援が必要。全体的に支援の選択肢がない。引きこもりの親に声をかけにくい。
- ・情報の周知が大事。

【悩みや不安を抱える若者やその家族に対する相談体制の充実】

- ・繋ぐまでの課題がある。切れ目、繋ぎ目。
- ・学校側としては本当に支援が必要な子の情報はわからない。
- ・バーチャルの相談する側としてはいいけど、支援者側では管理が難しいかもしれない。
- ・**切れ目なく相談できる場所**。
- ・どこに相談するか。相談してもあっち振られこっち振られ、いちから話さないといけない、嫌だ。**できるだけ一本化できる窓口**。
- ・SNSでの相談体制(こどもに合わせた相談体制)
- ・子どもと親とで全然違う。親のケアの相談窓口。特に日中は仕事のため、時間に余裕のある相談窓口。
- ・親と子両方にキャリアコンサルタントによる支援がいる。
- ・学校現場が楽になるような他職種連携ができればいい。
- ・困っている若者に、自身は相談していい立場であると理解してほしい。自分がしんどいと気づくこと。

計画への意見反映ポイント

① 居場所とは、安心・安全な場所であり、人によって異なる。(居場所について一緒に考えられる相談体制が必要。どんな場所・手段なら自分らしくいられるのか。)

② ライフステージが変わると相談先・支援者も変わる。また、ライフスタイルも多様なため、相談できる手段を増やす必要がある。

学校の卒業時など、ライフステージの変化のタイミングで支援機関も変更になる。

⇒切れ目ない支援体制の構築(各支援機関・相談支援体制の連携強化)が必要

③ 誰かに話を聞いてほしいと思っている若者がいることから、相談窓口の強化に加え、SNSやオンラインなど、相談支援へのアクセス強化が必要。

1. 若者の意見まとめ (アンケート中間結果による傾向から)

重点項目4 配慮が必要な子ども若者への支援(4-5不登校・ひきこもり(子ども若者計画)、重点項目5 ライフステージにおける支援(5-3青年期(子ども若者計画))に反映させる。

社会の一員としての主体性を高めることにつながるよう、自己肯定感や自己有用感の向上を目的に、どのような環境や仕掛けが必要であるか、若者自身の思いを聴き、の取組みに活かす。

若者の意見

【回答抜粋(速報)】

回答数:444(うち若者404、家族40 和泉市在住・在勤・在学255)

対象:高校生～39歳の若者とその家族

設問《外出頻度からみた相談希望について》

- ・普段は家にいるが、自分の趣味等に関する用事の時だけ外出 73/404
- ・普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける 6/404
- ・自室からは出るが家から出ない 8/404
- ・自室からほとんど出ない 2/404

↓期間

この状態になって6か月以上 76/89

・どこか(誰かに)相談したい 18/89

うちこの状態について相談したいと思う18 思わない71

・親身になって話を聞いてくれるところに相談したい 28/89

・同じ悩みを持つ人と出会えるところに相談したい 18/89

・無料で相談できるところに相談したい 19/89

・自分のことを知られたくないから相談したいと思わない 17/71

・相談に行っても解決できないと思うから相談したいと思わない 12/71

どういところなら
相談したいか

相談したくない
理由

設問《生きづらさについて》

・生きづらさを感じたことがある、過去にあった 179/404

↓理由

・家族以外の人間関係が理由 91/404 ・自己否定感が理由 84/404

設問《理想の働き方について》

・働きたくない 51/404(16歳～19歳 48 20歳～25歳 3)

設問《困難を抱える若者の支援に必要と思われること》

・ひきこもり状態に理解のある支援者がいること 217/444

・日中に過ごせる居場所があること 193/444

・気軽に相談できる場があること 186/444

設問《地域社会に求めること》

・若者が活躍できる機会がたくさん用意されること 303/444

・同じような悩みを抱える当事者が集まれる機会があること 132/444

・市内にある事業所などが若者を多く雇用すること 125/444

計画への意見反映ポイント

※クロス集計中

① 少数ではあるが、「自室から出ない」「家から出ない」人がいる。また、生きづらさを感じたことかあるという人が44%あがっていることから、生きづらさを感じることは決してまれではない。

⇒生きづらさを感じたときに相談できる場にアクセスできる体制整備が必要

② 「相談したい」人がいる一方、相談ニーズがあるにも関わらず「相談したいと思わない」という人がいる。

⇒若者が活躍できる機会(地域の様々な機会や就労など)にアクセスできることが必要